

## シェールガス輸入による価格リスクの低減効果

—米国天然ガス価格リンクLNGによる輸入価格変動の抑制程度はいかに?—

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ 研究主幹

柳澤 明

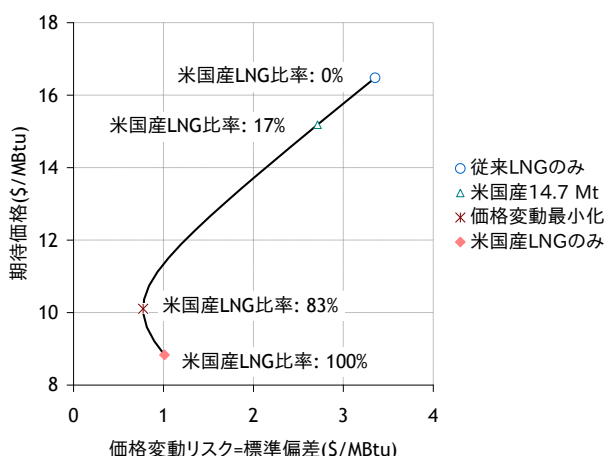
### 要旨

原油価格の上昇や日本の需要増大などで、アジアではLNGが高騰している。これに対し、米国ではシェール革命により、天然ガスが極めて低い価格水準となっている。その米国の天然ガスを日本に輸入しようとする動きが活発化している。

米国産LNGの輸入による便益は、その直接的な効果にとどまらず、より大きなものになるとの期待もある。具体的には①供給源多様化⇒途絶リスク低減、②他のLNG契約における価格交渉力強化⇒より広範なLNGの価格低減、③価格フォーミュラ多様化⇒価格変動リスク低減、などである。本論文では、米国産LNG—正確には米国天然ガス価格リンクLNG—が、わが国のLNG輸入価格変動リスクの抑制にどの程度寄与しうるか分析した。

2009年以降のデータに基づけば、日本企業が関連するプロジェクト分14.7 Mtの米国産LNG導入により、価格変動リスクは19%、価格は8%低下する。価格変動リスクを最小化するポートフォリオは、輸入量比率で従来LNG 17%、米国産LNG 83%で、リスクは77%、価格は39%低下する。米国産LNGのみの場合と比べると価格水準は割高となるが、リスクは23%減少する。当該期間において従来LNGと米国産LNGはよい補完関係となりえた。

価格変動リスク最小化ポートフォリオ(2013年3月)



ただし、価格変動リスク最小化ポートフォリオにおける構成比率は期間に依存する。例えば、2011年7月以降を対象とすると、米国産LNGの構成比率は約50%にまで低下する。Henryハブ価格が乱高下した2001年前後や2006年前後のみを対象とした場合、米国産LNGの組み込みは好ましい結果をもたらさない。

近い将来に全輸入量の50%~80%もの米国産LNGが輸入可能になる、あるいは既存の契約が米国天然ガス価格リンクになると考えるのは現実性に欠ける。また、米国産LNGの輸入価格を左右する米国天然ガス価格の安値持続可能性やマージンなどに関する冷静な評価も欠かせない。都合のよい想定や希望に基づく過度に楽観的な期待は慎むべきであろう。

キーワード: シェールガス、LNG、価格変動リスク、原油価格リンク、米国天然ガス価格リンク